

2018年2月18日(日)／説教者:神谷武宏

説教:「神にはできる」

聖書:マルコによる福音書10:17～27

金持ちの男がイエスに問う。「永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいか」と。彼は金持ちであったにもかかわらず満たされぬ思いを抱えていたようだ。イエスに問われる。《持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい》と。金持ちの男は《この言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。》

私たちはこのイエスの言葉をどう聞く者か？イエスは私たちにも、きっとおっしゃっておられるであろう。《持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を積むことになる。それから、わたしに従いなさい》と。私たちは、この男と同じように「気を落とし、悲しむ」者かもしれない。しかし、イエスのもとを去る者ではなく、イエスのところに留まり、御言葉に留まり、その意味を深めて行くことが出来ればと願う。

この男の人が立ち去った後、イエスは弟子たちにこう語る。《「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」弟子たちはこの言葉を聞いて驚いた。イエスは更に言葉を続けられた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」弟子たちはますます驚いて、「それでは、だれが救われるのだろうか」と互いに言った。》ここは、あなた方が行いで神の国に入ろうとするなら幼子のように何も持たないことであるということを意味する。しかし、イエスは言葉を続ける。《イエスは彼らを見つめて言われた。「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」》と。とてつもない訓練、修行を積んで何とかなるものではない。ただ、神の憐れみにより、私たちは救われる。

この27節の初めに「イエスは彼らを見つめて」とある。弟子たちを「見つめて」憐れむように慈しむように見つめておられる。実は先ほどの金持ちの男に対してもイエスは「見つめて」(21節)おられる。

私たちは主イエスのまなざしに注がれていることを覚え、キリストに留まろう。こんな私ではあるがキリストの救いは私たちに注がれている。「人間にできることではないが、神にはできる。」神は何でもおできになるのである。(神谷)